



北のシュプール

第489号

発行 北海道勤労者スキー協議会機関紙部 編集責任者 金濱 茂
札幌市白石区平和通3丁目北 3-13-202 tel&fax:011-784-3272 郵便振替 02700-7-48231
ホームページ: <http://www.wsah.info/> e-mail: wsaj.hokkaido@gmail.com

デモ選・テクニカルコンペ開催

教育部長 三浦 学 記



1月27・28日北長沼スキー場にて第21回全国スキー協デモンストレーター選考会&第13回スキーテクニカルコンペ(STC)が開催されました。毎年3月に長野県で行われていますが、今年は北海道でも開催する事となりました。会場となる北長沼スキー場は雪不足のため心配されましたが、十分な降雪があり、好天にも恵まれ絶好のコンディションとなりました。

検定員は全国スキー協荻原副会長、岡田技術教育局長、野瀬技術部長の3名で、デモ選には13名(道外から2名)、STCには17名、合計30名の参加がありました。まず、デモ選・STC共通の4種目(コンビネーション、ロングターン、ショートターン、不整地小回り)を行い、その後、デモ選の残り4種目(真下への横すべり、初歩の平行II、ベーシック平行、洗練の平行I)を行いました。

デモ選は8種目平均75点でデモ認定となります。藤井隆幸さん(グロウ)、宮腰大さん(岩見沢ホワイトフレンド)が見事にデモ認定となりました。渡邊公平さん(大平原)も基準点を超える滑りを見せましたが、年齢制限の為認定とはなりませんでした。

STCでは男女年齢別に4つのクラスがあり、女子マスターは長谷川尚子さん(スカディ)、男子レギュラーは水口大輔さん(グロウ)、男子マスターは安達典生さん(札幌スキーフレンド)が第1位でした。全国では都道府県対抗で表彰を行っています。今回は全員北海道なので成り立ちませんが、クラブ対抗で行うのも良いかもしれません。

北海道では初の取り組みでしたが2名のデモンストレーターが誕生したのは喜ばしいことです。若い人材が発掘されたこと、参加者の技術向上に貢献できたかと思いました。

第21回デモ選、第13回スキーテクニカルコンペの採点結果は全国・道のHP参照



The 41th Ski Festival in KAMUI



第41回スキーフェスティバル 事務局次長 田附 豊 記

2月3日(日)、4日(日)旭川カムイスキーリンクス、宿泊はトヨーホテルで行われた第41回スキーフェスティバルは、全道から15クラブ 86名、道SAJから2名の計88名(2歳から80歳)が参加して開催されました。

昨年第40回の記念大会を新型コロナ禍の中、1日日帰り日程で今回開催の足掛かりを作ったうえで、第41回大会スキーフェスティバルを道スキー協として新たな歴史を作ろう!と開催しました。

今回のスキーフェスティバルは昨年からの物価高でホテル代、参加料などが高額となったことコロナ・インフルエンザの警戒感で宿泊参加者も少なくなり、90名を切る結果となり苦しい大会運営となりました。

しかし、スキー場は朝から旭川のカムイがほほ笑み、気温零下15度でしたが、良く整備されたピステとアスピリンスノーの深雪もあり、山頂付近は真っ白な樹氷で快適なスキー日和となりました。

今回「コブコース」は道スキー協として初めて、全日本技術戦で活躍している若手講師にお願いし、有料のオプションコースとして行いました。当初、何人集まるか不安でしたが、11人の方が参加。若くダンディで、コブの滑りがスキー協の次元を超えている講師に、「指導方法も整地でコブの基本的な滑り方とコブコースでの基本的滑り方を教えていただいたので、これからのクラブのために大変良かった」「全日本クラスの先生に教えていただいてとてもよかった」との感想が出るほどでした。

3年ぶりの夜のクラブ交流会では、島崎徳明会長、地元旭川ゆきうさぎの宮崎廣光会長代行の挨拶、佐々木隆雄副会長の乾杯で交流会がスタート。高齢者に優しい料理がオードブル形式で、盛り付けられるので落ち着いて食べられると好評でしたし、実行委員会で販売した生ビールが安くて美味しいとよく売れていました。楽しいクラブ紹介や豪華?景品の抽選会・ジャンケン大会で、「やはりみんなで来ると楽しいね!」との感想がありました。

クラブ交流会では石川副実行委員長の撮影したビデオの上映があり、各コースの滑りが映し出されて歓声が上がりました。

2日目は少し曇っていましたが、9時~12時まで各コースリーダーのもと、元気に楽しんで、大きな事故もなく終えることができました。

閉会式では三浦裕子実行委員長の「3年ぶりにコロナ禍を乗り越えて1泊2日のスキーフェスティバルをスキー仲間とスキーできた喜び」の挨拶がありました。また、4つのコースから感想が寄せられ、各グループ、クラブ毎の写真撮影などで交流しました。

「マルチコース」に参加して

北のメルヘン 蝦名由紀子 記



私の居住区北区太平はあいり地域にも勝るとも劣らない(失

礼)、多雪暴風地域になります。フェスティバル前日まで、車庫の1/3まで吹き付ける強い風の付いた猛吹雪でしたので朝5:30分起床2時間近くの除雪をして、クタクタ状態での出発となりました。向かう途中もホワイトアウト状態の中「カムイリンクスの天気は、どうかな・・・」と「今までも猛吹雪だったり、雨が降ったりと大変な時もあったね。」と同乗の山口夫妻・熊谷さんと話をしながらスキー場に到着。なんと晴れ

ているではないか ラッキー!!私の参加した「マルチコース」初日西飯リーダーと8名にてスタート。主にゴンドラを利用し、それぞれのゲレンデ状態に合わせて、リーダーからのワンポイント指導があり、どのコースも安心して不安なく滑ることができました。途中でコブコースの皆さんの奮闘を見学、リーダーからコブ滑りのチョイコツ指導もあり充実した一日目でした。

2日目天気は曇り、でも気持ちは晴れ!この日は参加人数10名2班に分かれ、三浦リーダーも加わり元気なスタートとなりました。

私は引き続き西飯リーダーで不整地の滑りなど曇り視界不安は有りましたが安心・安全な指導の下、楽しい一日を過ごす事ができました。三浦リーダー班も大満足の日だったと思います。

フェスティバル実行委員・リーダー・お世話係の皆様ご苦勞様でした、ありがとうございました。

スキーフェスティバル初参加

ぎやろっぷスキークラブ 山田 健 記



昨シーズンにコブで転倒してケガをしたため、安全に滑る技術を習おうとコブ体験コースを選びました。講師はSAJ技術選の現役選手 関澤 徹さん。全日本クラスで活躍する選手の滑りを初めて間近で見て、「すごい!同じスポーツとは思えない。」とまずは感嘆しました。一方で、参加者(1日目9人・2日目10人)のレベルはというと...関澤さんは私たちの年代と技量を見て、コブ滑りのテクニックよりも、基本的なことに重点を置いて指導してくれました。基本姿勢~良いポジションに乗ることが整地以上に大切なこと、特に足首を緩めないことを繰り返し指摘しました。初日は斜面をようやく降りてくる人が大半でしたが、2日目はコブが深くなってきたにもかかわらず、多くの人がコース外へ飛び出さずに完走しました。関澤さんもニコリ。2日間の講習で、コブへの恐怖心がちょっと和らぎ、少し慣れてきたようです。ありがとうございました!

スキーフェスティバルinカムイに参加して

ナイスミドルスキークラブ 榎 富士子 記

「あの樹氷のきれいなカムイリンクスで滑りたい!」その思いが一番でフェスティバルに申込みました。

開催にあたっては、地元ゆきうさぎの皆様、スキー協の役員の皆様、班リーダーの皆様、開催までの大変な準備と当日の進行をありがとうございました。おかげさまで、カムイリンクスのスキーバスに乗って、小さな旅気分に参加する事が出来ました。

班編成には少々戸惑いましたが(場違いのクラスに入ってしまった)、2日目は、かたつわり班に編入しナイスミドルのもう一人と共に、マンツーマンレッスンを受けることができました。繰り返し動作を伴って指導くださり「オーっ いいよー。」と褒めの言葉もいただいたりして。私たち二人はクラブ例会で「こうだったよねー。」と振り返りをしています。

カムイリンクスという素敵なホームゲレンデを持つ、ゆきうさぎクラブが羨ましいと共に、大変お世話になりました。ありがとうございました。

スーパーマルチコース班

札幌ナイスミドルフレンドスキークラブ 安味俊三 記



スーパーマルチコースはゲレンデを隅々までどんどん滑りまくる班だろうとの認識で参加しました。ところが意に反し当日リフトを2本乗り続いた後いきなり密林の中に入っていきます。やっと密林を抜けてゲレンデまでたどり着くと、表山リーダーが平然と言“これで足慣らしが出来ましたね”と言われたのでビックリ!! このままこの班について行けるのかと不安がよぎりました。気を締めなおして鈍くなった運動能力・五感をフルに使いながら?密林、また密林の中を滑りまくりました。リーダーを時々見失いながらも何とかくらいつき、密林を抜けてゲレンデに出るたびに“ホット”するその繰り返しでした。緊張する班でしたが表山リーダーのコースの取り方や地形の習熟度、田代リーダーのスピード感あふれる滑りを直に触れて、ゲレンデとは違う醍醐味のある二日間のスキーでした。改めて密林の中を

楽しく滑りまくっていた表山リーダー、田代リーダーそして、ご一緒したメンバーには思い出に強く残るスキーを体験させて頂き感謝申し上げます。

今回は山スキーコース(音江山)を選択しました

オフピステダブル会員 二瓶 充 記



メンバーはオフピステの人達が主体の11でした。

深川に有る音江山は標高は795.6mとさほど高い山では有りませんが積雪量は多く、スキーに適した木々の少ない開けたバーンが有り山スキーヤーにとっても人気の有る山です。

前日は天気が悪く、フェスティバル当日はどうなることかと心配しましたが、天気が良くて風もほとんど無く、又前日に雪が積もったことから最高のバックカントリー日和になりました。

が、しかし山では喜んでばかりはいられません。降り積もった雪のせいで登りはキツイラッセルが有ります。(我々は先行者のトレース跡を使用)下りも沢や開けたバーンでは雪崩に細心の注意を払わなければなりません。また深雪の中では転倒すると簡単には起き上がりません。このように様々なリスクが有るのが山スキーです。

リーダー、サブリーダーは皆の状態を確認しながら休憩を取ったり、転倒した人を救出するために1番最後に滑ったりと大変気を使います。そんな音江山バックカントリーでしたが、リーダーの適切な指導のもと11人全員が山頂に立つことが出来、最高のパウダースノーを楽しむことが出来ました。

全員ケガなく無事下山することが出来て本当に良かったです!

2024年指導員検定会結果

中級指導員合格

- ・札幌スキーフレンド 斎藤 進一
- ・岩見沢ホワイトフレンド 宮腰 大

初級指導員合格

- ・ぎやっろぷスキークラブ 二瓶 充
- ・スカディスキークラブ 長谷川 尚子、本田 章
- ・札幌グロウスキークラブ 藤井 隆幸